

巻頭言 感染管理室 室長に着任して



<感染管理室 室長>
<江原佳史>

皆様はじめまして。鈴木浩介先生の後任として8月から当院感染管理室室長に着任いたしました臨床病理診断科の江原佳史と申します。

私は2006年に獨協医科大学医学部卒業後、初期研修を経て群馬大学医学部小児科学教室に入局し小児科医として働きはじめました。小児科2年目の研修病院の上司の先生が国立感染症研究所ご出身の先生で感染症疫学がご専門であり、その先生の指導の下、劇症型溶血性レンサ球菌感染症、マラリアなどの珍しい感染症を診療する経験をし感染症に興味を持ちました。小児科医として5年間市中病院で勤務し、小児科専門医を取得後2013年に慶應義塾大学大学院医学研究科に入学し、臨床検査医学の道に足を踏みいれました。その後小児感染症、特にB群溶血性レンサ球菌の抗菌薬作用に関する研究を行い、学位及び臨床検査専門医を取得し、市中病院の検査部長を経て、2020年9月より当院臨床病理診断科に勤務しております。

当院赴任後、臨床病理診断科で感染症専門医・指導医であり臨床検査専門医の木村聡教授と一緒に、病院内の臨床検査に関するコンサルテーション業務、院内パニック値の確認及び抗菌薬適正使用チーム(AST)等の一員として院内の抗菌薬適正使用推進に関わってきました。小児科医としては様々なウィルスや細菌を中心とした臨床経験を、また臨床検査専門医としては直接診察こそ行いませんが、抗菌薬の選択や治療方針など臨床の先生方のコンサルテーションに対応させていただき、検査データへのコメント記載などからサポートさせていただく形で経験を積んでおります。

小児科医と臨床検査専門医というかなり風変りな肩書ですが、感染症を中心とした臨床経験及び臨床医を検査側から補助する経験を持っていることは非常に幸せであると考えております。

現在新型コロナウイルスが猛威を振るっております。特にデルタ株が爆発的に流行している状況で感染性も非常に強く感染対策が非常に重要となっております。感染症対策は個人ではできずチーム医療だと思っております。当院感染管理室は医師、Infection Control Nurse(感染管理認定看護師)を中心とした看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務員の方々に構成されており、皆で1つ1つの症例を相談しながら総合的な視点からみた感染症対策を行えるよう常に努力しております。ただし感染対策は、感染管理室のみで行なえるものではなく、院内のスタッフの皆様のご協力無しには成り立ち得ません。若輩ものゆえ皆様にご迷惑をおかけすると思っておりますが、何卒ご協力のほどよろしくお願い致します。



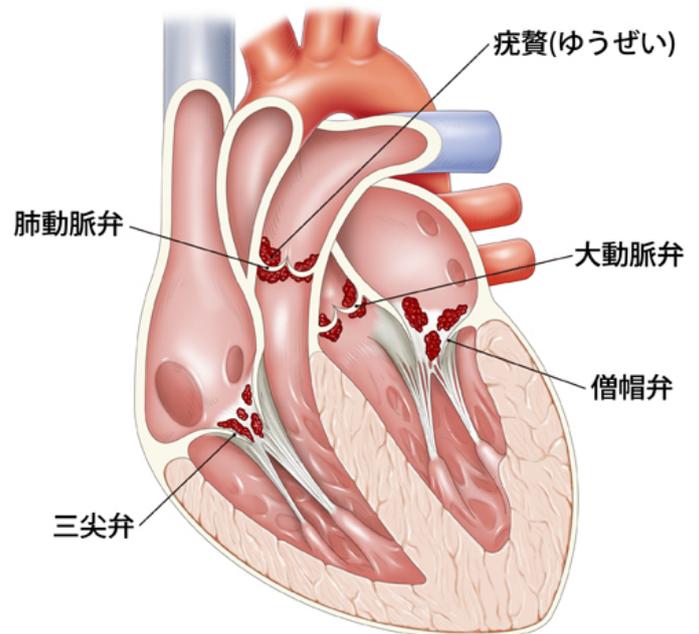
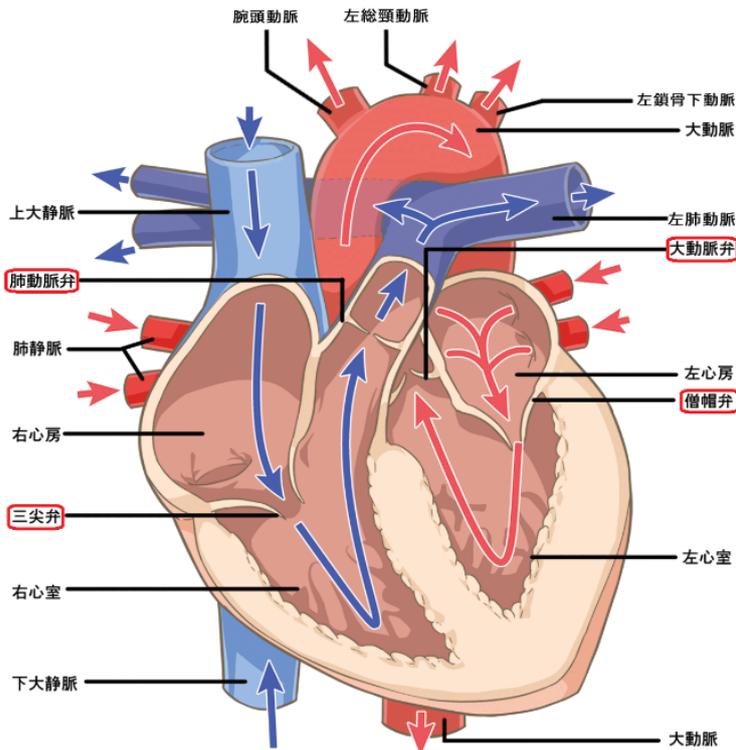
- P1. 【巻頭言】感染管理室 室長に着任して
- P2. 【医学講座】感染性心内膜炎について
- P3. 【お知らせ】秋期 市民公開講座を開催します
- P4. 栄養科のご紹介
- P5. 患者さんからのご意見・ご要望
- P6. 【お知らせ】診療体制の変更について／編集後記

【医学講座コーナー】 感染性心内膜炎について

(循環器内科 准教授 磯村直栄)

どんな病気？

心臓は左右に分かれ4つの腔(右心房、右心室、左心房、左心室)と弁膜(三尖弁、肺動脈弁、大動脈弁、僧帽弁)を有し、血液を全身に送るポンプ機能を有しています。この心臓に主に細菌が感染することによって生じる感染症が「感染性心内膜炎」です。疣贅(ゆうぜい)と呼ばれる菌塊が弁膜に付着することが多いです。一般人口における感染性心内膜炎の発症率は3~7/10万人・年とされます。歯科処置などで血液内に病原微生物が侵入した際に元々の心臓弁膜症や先天性心疾患、心臓弁置換術後などの心臓病をお持ちの方に発生するリスクが高いと考えられます。進行すると心臓弁膜の構造が破壊され心不全や脳梗塞などの塞栓症を起こしうる重篤な疾患です。



症状や兆候は？診断は？

典型的な症状は長期間続く発熱、悪寒や易疲労感などですが、病像は多岐にわたり診断は容易ではありません。特に複数医療機関で既に何らかの抗菌薬や抗炎症薬による治療を受けていた場合などは診断が困難となることがあります。誘因となる歯科治療や外科手術などが確認できるのは25%程度です。素因、発症契機、症状、画像診断、血液培養所見、臨床経過などを総合的に判断し診断します。

予防、治療について

心臓内に病原微生物が集まった疣贅が形成されることが多いため、内科的治療は抗菌薬の4~6週間の長期的な投与となります。しかし抗菌薬が有効でない場合、うっ血性心不全が重症となる場合、疣贅が大きい場合、真菌感染症の場合などは内科的治療では限界があり外科手術が必要となることもあります。また心臓弁膜症手術後の人工弁に感染した場合も内科的治療が奏効せず外科手術が必要となることが多いとされます。昨今、大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的大動脈弁置換術を受ける患者さんが増えていますが、長期的には感染性心内膜炎が生じる可能性がありますので、外科的人工弁置換術を受けた患者さん同様に気を付ける必要があります。約半数の感染性心内膜炎の患者さんが外科的治療を受けているとの調査結果もあります。

中等度以上のリスクがある患者さんでは歯科治療、ペースメーカー植込み術、アデノイド摘出術などの際に予防的に抗菌薬を使用することが推奨されています。日常生活での咀嚼やブラッシングでも口腔内の病原微生物が体内に血流を介して侵入することがあるため、口腔衛生状態を管理することが予防として重要と考えられます。同様に皮膚の搔破からの感染も起こりえますので、皮膚を清潔に保つことも予防に重要です。

【お知らせ】 秋期 市民公開講座を開催します

病診連携：都筑区医師会と北部病院の取り組み

「病診連携」とは診療所と病院が役割を分担し、連携する仕組みのことです。
今回の公開講座では都筑区内の診療所と当院の連携体制についてご案内します。

開催日時：

10月9日（土）13時30分～

開催方法：

オンライン開催（LIVE配信）

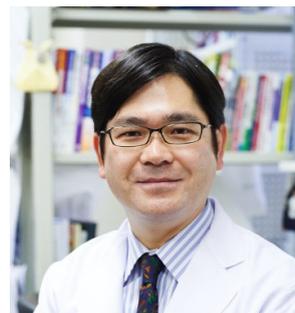
参加費
無料

第1部 13：30～

「病診連携—北部病院の取り組み—」

昭和大学横浜市北部病院 総合サポートセンター

センター長 三輪裕介 准教授



第2部 14：30～

「病診連携—診療所の上手なかかり方—」

都筑区医師会 会長 深澤 立 医師



- 予約は不要です
- どなたでも参加いただけます
- 当日の詳細は当院ホームページをご覧ください



【お問い合わせ】

管理課 企画庶務係 TEL：045-949-7000（代表）

後援：横浜市都筑区役所、公益社団法人 横浜市病院協会

栄養科のご紹介

当院の栄養科には学会認定の指導士の資格を持った管理栄養士が3名在籍しています。
栄養科の基本方針である、患者本位の細やかな栄養管理を実践するよう、日々取り組んでおります。



なかだ み え
中田美江

- 病態栄養専門管理栄養士
- 糖尿病療養指導士
- 栄養サポートチーム専門療法士
- 心臓リハビリテーション指導士
- 高血圧・循環器病予防療養指導士



とくみつ あさみ
徳満麻美

- 病態栄養専門管理栄養士
- 糖尿病療養指導士
- がん病態栄養専門管理栄養士



やながわ たかこ
柳川多佳子

- 糖尿病療養指導士
- 腎臓病療養指導士

栄養士への栄養相談は当院に入院中の患者さん・外来通
院中の患者さんに対応しております。
ご希望のかたはお気軽にご相談ください。

★病態栄養専門管理栄養士★

どの病気の治療においても、栄養管理は治療の基礎であると考えます。
病態栄養専門管理栄養士として、各疾患・病態における適切な栄養管理について提言します。

★がん病態栄養専門管理栄養士★

抗がん剤治療や放射線治療の副作用に対する食事の工夫をアドバイスしたり、苦痛症状に配慮して病院食を調整したり、がん患者さんの食生活を幅広くサポートしています。

★糖尿病療養指導士★

糖尿病の治療は、食事によって治療効果を高めることに繋がります。
治療の中で、もっとも大切な自己管理(療養)の食事を中心とした指導を行っております。
患者さんの個々のライフスタイルに合わせた食事療法が実践できるよう努めてまいります。

★腎臓病療養指導士★

保存期の腎臓病は、食事によって透析導入を遅延させる効果が高いと言われています。
継続的な栄養指導から患者さんに無理のない食事療法を提言し、重症化予防と患者さんのQOLの維持・向上を図っていきます。

★栄養サポートチーム専門療法士★

栄養サポートチーム(NST)は多職種による患者さんへの適切な栄養管理を実施、支援するチームで、患者さんの栄養状態をスクリーニング、アセスメントし、適切な栄養管理をします。
栄養状態の改善は疾患や褥瘡の治療効果、合併症の予防に影響するだけでなく、患者さんのQOLを高め、在院日数を短縮し医療費の削減にもつながります。

★心臓リハビリテーション指導士★

循環器疾患の治療、二次予防、三次予防に関連する食事療法や生活習慣の指導、QOL向上を目的に栄養指導という形でサポートしています。入院中のみならず、外来でも継続的にサポートさせていただきますので、お声がけください。

★高血圧・循環器病予防療養指導士★

循環器病の主たる原因である動脈硬化には高血圧が最も関与しています。高血圧や生活習慣の改善、予防、肥満などの危険因子に関する栄養指導を行っていますので、お気軽にお声がけください。

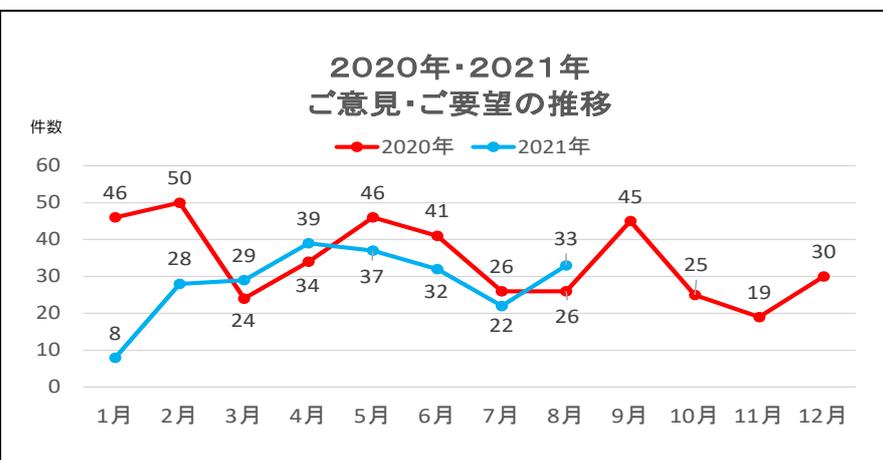
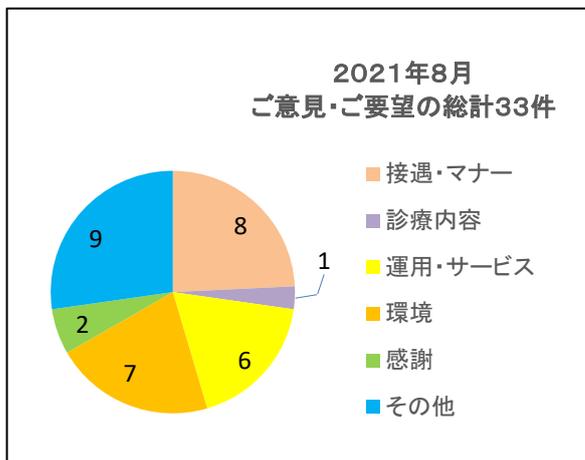
患者さんからのご意見・ご要望

日々患者さんよりいただきましたご意見・ご要望に関しましては、病院長及び関連する部署の責任者に報告し、改善に努めております。

今までのご意見の中で多くいただいたものや最近のご意見・ご要望を中心に改善策を掲載させていただきました。掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。

今後もお気付きの点やご要望をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

ご意見・ご要望	回答・改善等
<p>検査、受診が終わってから会計まで時間がかかる。 毎回、長蛇の列を2度も並ぶ。 改善を望みます。</p>	<p>会計までの待ち時間につき、不快な思いをさせてしまい、大変申し訳ございませんでした。 この度は、自動会計機での支払いができずに有人窓口にて対応させていただいているケースと拝察します。毎回ご迷惑をお掛けしているようですので、有人窓口の係員に自動会計機が使えない理由を確認していただきたくお願いいたします。 待ち時間の短縮は当院の大きな課題です。現状を少しでも良くするために、患者さんから寄せられるご意見を参考にしながら、原因調査を実施し、お待ちいただいている患者さんのお気持ちや症状にも配慮した対応ができるように努めてまいります。 (回答部署：医事外来課)</p>
<p>貴院のホームページに、脳血管センターの詳細が書かれていません。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 当院では、今年6月に脳血管センターを新設しました。 詳細につきましては、現在作成中です。 誠に申し訳ございませんが、今しばらくお待ちいただけますようお願いいたします。 (回答部署：管理課)</p>



【お知らせ】診療体制の変更について

オリンピック・パラリンピック開催にともなう祝日の移動および本学創立記念日のため、以下のとおり診療体制が変更となります。診察のご予約の際にはご注意ください。

通常診療

10月11日（月）

休診日

11月15日（月）
【本学創立記念日による休診】

休日診療

（外来診療は縮小します）

1月10日（月） 成人の日
3月21日（月） 春分の日



編集後記

残暑も落ちつき、食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋というように様々なことを楽しめる時期となり、日増しに秋の深まりを感じる季節となりました。

それと同時に朝夕はめっきり涼しくなり、体調管理により一層気を使う時期でもあります。皮膚科としましては、空気の乾燥とともに皮膚も乾燥によるトラブルが出てきやすい時期ですので、保湿などを取り入れていただけると嬉しいところです。

また、10月15日は「世界手洗の日」です。まだまだCOVID-19への心配も多く、我慢が必要な時期です。ウイルスなどから自分の身を守るために、正しい手洗いをいま一度見直してみたいはいかがでしょうか。

（皮膚科 助教 五味由梨佳）



北部病院だより 第160号
2021年10月1日発行

発行責任者 門倉 光隆（昭和大学横浜市北部病院長）
編集責任者 緒方 浩頭（広報委員会 委員長）
発行 昭和大学横浜市北部病院
〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1
電話 045-949-7000（代表）
URL：<https://www.showa-u.ac.jp/SUHY/>
北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。